

Ⅱ. 骨粗鬆症リエゾンサービスと骨粗鬆症学会認定医制度

3. 骨粗鬆症学会認定医制度

Board certified member of the Japan osteoporosis society

今西 康雄

Yasuo Imanishi(准教授)／大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学

いまだ多くの骨粗鬆症性骨折が、わが国において発生している。このような事態を打開するために、日本骨粗鬆症学会が主導となり骨粗鬆症学会認定医制度が制定された。本制度の発足によって、骨粗鬆症診療のスペシャリストが誕生し、高齢者の生命予後とQOLの改善が期待されている。

はじめに

わが国は高齢化が著しく、骨粗鬆症による脆弱性骨折は高齢者の健康・生活の質(QOL)のみならず、生命予後をも悪化させる。また、糖尿病をはじめとする生活習慣病患者は、年々増加傾向にある。生活習慣病の合併自体が骨折リスクの増加に繋がることが知られるようになり¹⁾、一般臨床医において早期に骨粗鬆症の診断・治療を行うことが求められている。さらに、わが国においていまだ多くの骨粗鬆症性骨折が発生している。このような状況下、一般社団法人日本骨粗鬆症学会において、稲葉雅章教授(大阪市立大学)を委員長とした認定医制度委員会が組織され、認定医制度が発足した。

認定医制度の目的

認定医制度の目的としては、「骨粗鬆症診療に関連する医学と医療の進歩に即応した能力をもった医師を養成し、それによって国民が広く最適な骨粗鬆症に関する医療の享受を担保すること」である。そのためには、原発性骨粗鬆症の適切な評価・治療方針の策定とともに、続発性骨粗鬆症の鑑別・評価も重要な課題である。

前記の目的を達成するためには、骨粗鬆症関連の各種ガイドラインに精通し、ガイドラインに準じた診断と治療が求められる。わが国においては、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版²⁾が発表されているため、骨粗鬆症の診断・治療においては本ガイドラ

key words

骨粗鬆症学会認定医
脆弱性骨折
原発性骨粗鬆症
続発性骨粗鬆症
ガイドライン

インの習熟が求められる。

骨粗鬆症認定医としての 一般臨床医の役割

原発性骨粗鬆症を診断し、治療の最適化を図ることが求められる。さらに、続発性骨粗鬆症の鑑別も行い、原因となる疾患を見出す努力も必要となる。

続発性骨粗鬆症の原因としては、内分泌性、栄養性、薬物、不動性、先天性、その他と多彩であり、病歴聴取や診察ならびにスクリーニング検査などを駆使して、慎重に検討することが重要とされている²⁾。続発性骨粗鬆症は、疾患関連骨粗鬆症と治療関連骨粗鬆症に大別される。